血液透析患者の血清 Fetuin-A 濃度は動脈硬化と関連する

渡辺内科クリニック〇渡辺幸康・斉藤浩次

【はじめに】Fetuin A は主に肝臓から分泌される分子量 54kD のグリコプロテインであり、動脈硬化の石灰化を抑制する働きがあることが知られている。また、末期腎不全患者ではその血中濃度が低下しており、心血管系死亡率は血中 FetuinA 濃度が低いほど高いことが報告されている。しかし、血液透析患者の動脈硬化と Fetuin A との関連性を検討した論文はいまだ十分とはいえない。今回われわれは血液透析患者の血中 FetuinA 濃度を測定し、各種動脈硬化マーカーとの関連性を検討したため報告する。

【対象および方法】血液透析患者(HD 群)：78 例について, ABI フォルム・大動脈弓石灰化係数(AACI)を測定し,一般血液・生化学検査, ELISA 法で血清 Fetuin-A 濃度を測定し,動脈硬化マーカーとの関連性および生命予後についても検討した。

【結果】HD 患者の血中 Fetuin-A 濃度の平均値は正常下限より低く,単回帰で ABPI と正の相関を, baPWV とは負の相関を示し,重回帰で baPWV, ABPI と相関を示した。また,血清 Fetuin-A 濃度は単回帰で Alb と正の相関を示し,血清 Fetuin-A＜0.7g/L の群は≧0.7g/L の群に比べて有意に血清高感度 CRP の値が高かった。また, Kaplan-Meier 法での生命予後の解析では Fetuin-A＜0.7g/L の群が Fetuin-A≧0.7g/L の群にくらべて有意に生命予後が悪かった。

【結論】血液透析患者では血清 Fetuin-A は動脈硬化の進展度および MIA 症候群と有意な関連性が認められ,生命予後とも関連することが示された。